

(第三種郵便物承認)

上毛新聞

# 協力隊で環境教育に従事

## 甘楽町とJICAが覚書 町職員パラグアイ派遣

県内自治体初



甘楽町と国際協力機構（JICA）東京センターは3日、町役場で町職員のJICA海外協力隊派遣に関する覚書を交わした。交流のある南米パラグアイのイグアス市に町職員1人を2年間派遣し、市の自然保護やごみ問題の改善など「環境教育」に取り組んでもらう。県内自治体が協力隊派遣の覚書を交わすのは初めてで、国内では14自治体目となる。

イグアス市は人口約1万3千人の地方都市。日系人の移住地として発展した歴史があり、日本の文化や伝統の紹介も望んでいるという。覚書により、町は派遣中の職員への支援や活動後の復職を確約する。職員はJICAの選考試験や事前研修などを経たず、現地で活動する。

子屋が、地元農家と共に途上国向けの農業研修などJICAの事業を受け入れている。過去にイグアス市から研修者を受け入れた実績があり、町はパラグアイを含む海外視察団とも関係を深めてきた。

町は新年度の派遣を目標として職員を選考を進める。茂原庄一町長は、「甘楽で学んだ人たちがイグアスに戻って頑張る姿を視察した」と期待した。

覚書を交わす茂原町長（左）と田中所長

JICA東京センターの田中所長（56）は「甘楽はJICAの大切なパートナー。協力隊でパラグアイやイグアスとの関係をより深めてほしい」と話した。（田中暁）